



平成 30 年 10 月 30 日

各 位

上場会社名 株式会社シヨクブン  
 代表者 代表取締役社長 鈴木 章人  
 (コード番号 9969)  
 問合せ先責任者 執行役員ファイナンス本部長 塚本 一郎  
 (TEL 052-773-1011)

## 第 2 四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想について、平成 30 年 5 月 15 日に公表した業績予想との差異が発生いたしました。また、平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想について下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成 31 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値との差異(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,627	百万円 13	百万円 13	百万円 22	円銭 2.34
今回実績(B)	3,425	△95	△92	△68	△7.09
増減額(B-A)	△201	△109	△105	△90	
増減率(%)	△5.6	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	4,014	△65	△83	△657	△73.19

平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 7,790	百万円 249	百万円 250	百万円 186	円銭 19.40
今回修正予想(B)	7,229	△152	△150	△131	△13.70
増減額(B-A)	△560	△402	△401	△317	
増減率(%)	△7.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 30 年 3 月期)	7,970	△44	△109	△806	△83.97

平成 31 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値との差異(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 3,623	百万円 △15	百万円 14	百万円 31	円銭 3.31
今回実績(B)	3,420	△125	△90	△55	△5.81
増減額(B-A)	△202	△109	△105	△87	
増減率(%)	△5.6	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	4,010	△94	△81	△648	△67.52

平成 31 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 7,778	百万円 183	百万円 215	百万円 171	円銭 17.82
今回修正予想(B)	7,226	△187	△154	△120	△12.59
増減額(B-A)	△551	△370	△369	△292	
増減率(%)	△7.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 30 年 3 月期)	7,959	△110	△144	△821	△85.51

## 修正の理由

### 1. 第2四半期連結累計期間業績予想

当第2四半期連結累計期間につきましては、消費者の強い節約志向がより強まったことに加え、人手不足の雇用環境における要員不足など、当社グループにとり、厳しい環境で推移したこともあり、売上高は前回予想を下回り、34億25百万円となりました。

利益面におきましては、生産性の向上を図り、作業の見直しを行ったことで、製造にかかるコストは削減されましたが、大阪府北部地震や北海道胆振東部地震の他、8月には台風の本州への直撃もあり、野菜価格等が上昇したことにより、見込んでおりました調達コストの増加を招きました。結果、売上原価率は62.4%とほぼ前年並みにはなりましたが、当初の想定より2%ほど上振れし、利益の減少に至りました。

これらの結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を下回り、95百万円の営業損失、92百万円の経常損失、68百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失になりました。

### 2. 通期業績予想

通期の業績見通しは、第2四半期連結累計期間業績及び直近の実績に加え、下期におきましては、下記「対策」に記載しております施策を推し進めてまいります。売上に関しましては、上期から状況に大きな変化は見込まれず、また冬場に向けて調達コストが上昇すると思われ。結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を下回り、72億29百万円の売上高、1億52百万円の営業損失、1億50百万円の経常損失、1億31百万円の親会社株主に帰属する当期純損失となる見込みです。

3. 個別の第2四半期累計期間業績及び通期業績予想につきましても、連結と同様の理由によりそれぞれ修正いたします。

## 対策

当社グループでは厳しい経営環境を鑑み、売上、経費の両面から宅配業務の見直しを引き続き推進してまいります。同時に、仕入体制の改善により仕入コストの削減を行うことで安定した収益構造の確立に努めてまいります。

また、商品のラインアップを充実させるとともに、消費者目線に立ったサービスを展開し、お客様にご満足頂くと同時に顧客の増加を図ってまいります。

※ 業績予想等につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上